

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤナギムシガレイ

学名 *Tanakius kitaharai*

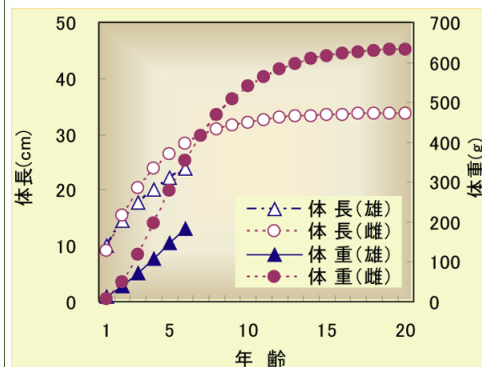
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄6歳、雌20歳(ほとんどの個体は10歳)
成熟開始年齢: 2歳(雄の大部分、雌の一部)、3歳(雌の大部分)
産卵期・産卵場: 1～6月(ピークは1～3月)、仙台湾以南の沿岸各地
索餌期・索餌場: 周年、水深50～400mの砂泥域
食性: 多毛類と甲殻類が主要餌生物
捕食者: 不明

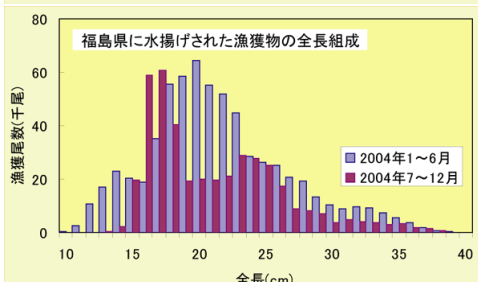
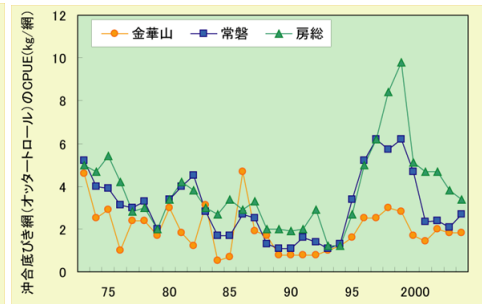
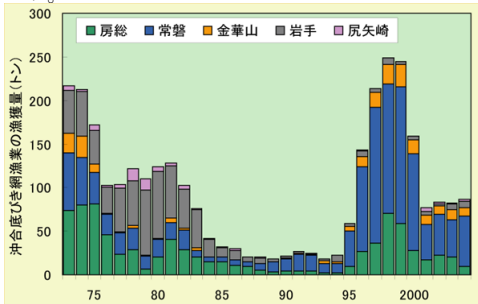


漁業の特徴

太平洋北部海域では、沖合底びき網漁業で最も多く漁獲され、次いで小型底びき網漁業が多い。本来南方系の種で、本海域の中でも南側に位置する福島と茨城で漁獲が多く、北側の青森と岩手では少ない。漁獲水深帯は水深50～200mで、繁殖期の冬場には80～100mで多く漁獲され、その他の時期には120～140mが多い。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲量は、大きな増減を繰り返している。近年では1990年代中盤から増加傾向を示し、1998年および1999年には240トン以上になり過去最高を記録したが、その後減少した。最近4年間は76～90トンで比較的安定している。平均的に漁獲圧は高いが、高齢になるほど高くなる傾向があり、若齢魚に対する漁獲圧は相対的に低い。

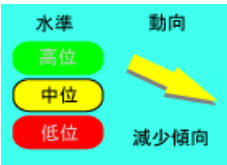
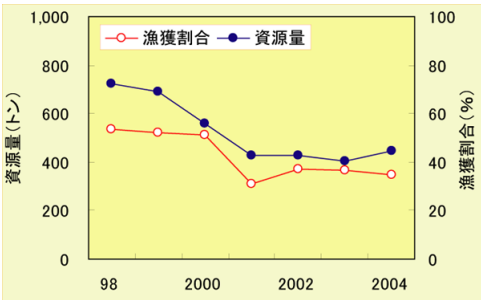


資源評価法

1998～2004年に茨城県もしくは福島県で漁獲されたヤナギムシガレイについて、年別前後期別(1～6月と9～12月)雌雄別のage-length keyを作成した。それをもとに年齢別漁獲尾数を求め、1～5歳以上の5年齢群についてコホート解析により資源量を推定した。

資源状態

資源量は1998年には700トン以上であったが、その後減少し、2003年には405トンまで減少した。2004年にはやや回復している(448トン)。加入量の年変化が大きく、そのことが資源状態を不安定にしている。最近2年間の加入量は卓越年級と考えられる1998年の半分以下であったが、資源量が分かっている7年間の中では2番目と4番目に多い。



管理方策

1990年代後半の漁獲量増加は、複数年にわたる卓越年級の発生によるものと考えられる。これまでの沖合底びき網漁業のデータから、10年以上の長期間にわたり卓越年級が発生しない時期もあったと考えられる。そこで、卓越年級が発生しなくても資源を高い水準に回復させることを管理目標とした。資源が中位、減少傾向であるため、F30%に0.8を乗じたものをFlimit、Flimitにさらに0.8を乗じたものをFtargetとし、ABCを算定した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	126トン	0.8F30%	0.28	26%
ABClimit	110トン	0.8・0.8F30%	0.21	23%

資源評価のまとめ

- age-length keyにより年齢別漁獲尾数を求め、コホート解析により資源量を推定
- 資源は減少傾向にあるが、最近は下げ止まりである

管理方策のまとめ

- 平均レベルの加入でも資源が徐々に回復するように漁獲を規制すべきである
- 若齢魚に対する漁獲圧は低いので、若齢魚は保護されていると考えられる
- 漁獲圧を0.8F30%にすることにより、卓越年級が発生しなくても資源を高い水準へ回復させることが見込める

資源評価は毎年更新されます。
2005.10.13更新